

# 感性を磨く。悟性を育む。

物ごとに深く感動したり、心を動かされたりする「感性」は、様々な感情を味わう体験によって豊かになり、磨かれていきます。感性が豊かになると、物事を深く考えるようになります。その出来事の原因や課題を突き詰めて、「自分ならどうする？」と考えたり、「どうやったら解決できるかな」と試行錯誤することもあります。

感性に動かされて深く考え、理性を働かせて結果を予測・分析し、本質を見抜く力を「悟性」といいます。つまり、感性が豊かでないと考えや行動が薄っぺらくなり、「本物」にはなれないということです。

「自分や社会の困りごと」にぶつかることで、「何とかしたい」という強い感情が沸き上がり、「どうしたらできるか」を考えるようになり、課題の解決へとつながっていきます。この「何とかしたい」をずっと持ち続けられるかどうか、とても大切だと思いませんか？

## 「誰も取り残さない」みんなのルールメイキング

ルールを作るには…？



工藤先生のビデオを真剣に見る高校生

「スマホが使えない学校って、今どきどうなの？」校則への素朴な疑問から人権問題まで、様々な「ルール」に関する課題が持ち上がっています。こうした時代に合わないルールを、生徒が主体となって見直し、提案していこうとするのが、今年5月に発足した「ルールメイキングプロジェクト(略してループロ)」です。

ループロではこれまで、単に個々の校則を変えようとしていたわけではありません。

「民主主義が根付いていない学校で、ルールだけを変えようとしてもうまくいかない。」一学校改革の先駆者、麴町中学校の元校長・工藤勇一先生の言葉です。「民主主義ってなに？ルールって何のためにあるの？」本質的な問いを立て、メンバーで考えてきました。

12月2日、SDGsの日に、この7か月間で学んだことを全校に情報共有し、「みんなで」校則のことを考えていこうという全校集会「みんなのルールメイキング」が開催されました。

### 民主主義ってなに？ルールは何のためにある？

民主主義とは、議論によって物事を決めること。つまり、少数意見を排除しない意思決定の方法です。「スマホ使いたい人ー！」「はーい」「賛成多数でスマホ解禁！」…そうではありません。スマホってなぜ必要なの？解禁することで、困ってしまう人はいない？こうした批判的視点を持ちながら、議論を前に進めます。全員が納得できる解にたどり着くよう、様々なアイデアを出しながら。

だから、ループロでは多数決で物事を決めません。よって、時間がかかります。それでも、みんなで議論しながら決めることに意義があるのです。

また、その時の都合によって作られ慣習化した、明文化されていないルールが沢山あることも分かってきました。ルールの目的を明確にし明文化する作業も行っています。



ループロメンバーが予想した以上に、議論が交わされ、「自分ごと」になっていたディスカッション



ループロへの提言も沢山いただきました。



進行を務めた高2-6、池田さん、大久保さん

### 「好みの問題」の議論には、意味がない

今回、全校に向けて「校則に関して、皆さんが困っていることは何ですか？」と問いかけをしました。

もし「どの校則をどう変えたいか」と問えば「髪型」「スカート丈」「メイク」など、細かなルールの改正に関心が寄ったでしょう。でも、考えてみてください。これらは、一人一人価値感が異なる「好みの問題」。議論しても、永遠に合意形成することはありません。漠然と感じていたモヤモヤに対して、工藤先生がビデオの中で言語化してくれ、目から鱗だったと思います。

さて、「困っていること」を問うたことで、「スクールバッグは自転車通学には向かない」、「指定コートを買わないと冬場に防寒着が着られない」、「ローファードだと足が痛くて辛い」、「地毛証明は人間の持って生まれた身体の否定ではないか」など「好みの問題」と区別された「取り残され感」を共有することができました。

そもそもルールは、共生のためのツール。苦しい人がいるのなら、それを看過せず、柔軟にルールを変更してもよいのです。でも一方で、自分の頭で考える自律的な行動を求められることも、忘れないでほしいですね。

## 日本経済新聞社 高校生SDGsコンテスト 全国の頂点に！ 最優秀賞受賞！



### 高2-7 神田紗希さん・丸山詩乃さん

全国から集められたSDGsに関する探究から、一次選考を通過した10プロジェクトが、9月16日、オンラインでプレゼンテーションを行いました。別の大会で全国優勝したプロジェクトなども参加する中、本校高2の神田さん・丸山さんが、民主主義の本質を考えた「ルールメイキングプロジェクト」をまとめ、見事、最優秀賞に輝きました！

二人は本校中学部2年の時に、ジェンダーレス制服導入を実現すべく探究をスタート。足掛け4年に渡って「包摂と公正」とは何かを追求してきました。蓄積した経験を活かし、本校ルールメイキングプロジェクトの柱となっています。

今までやってきたことは間違いではなかったことを確信して、とても誇らしく思っています！

今年度、新たにルールメイキングプロジェクトが発足したことで、学校全体で校則への意識が高まっています。私は、ルールは人を縛るものではないと思っています。自分と考えが異なる他者と共生するために、私たちはいま校則を見直しています。当事者は私たち。「私たち」の中には先生、保護者も含まれます。学校は小さな社会。私たちが大きな社会に出ても他者と共生できるよう、今、みんなで学んでいるのです。

学校も、自分も、社会も、私たちの手で変えていく！（神田さん・写真左）

これまで多くの方に評価していただきましたが、賞という形に残せたのは今回が初めてだったので、とても嬉しく達成感でいっぱいです。

多様性を「受け入れる」という言葉が浸透しつつありますが、今の世の中に必要なのは、受け入れることではなく「理解」することなのではないかと、私はこのプロジェクトを通して考えを改めることが出来ました。多様な価値感があることを当然と考え、全ての人々が納得できる答えが出るまで対話をやめない。時間はかかりますが今の学校、社会には必要なものではないでしょうか。1人でも多くの人に私たちの声が届いていたら嬉しいです。（丸山さん・写真右）



探究合同ゼミ 経験を言葉にのせて

## 福澤諭吉記念 第62回 全国高等学校弁論大会 「弁論の甲子園」で 優秀賞！

福澤諭吉の出身地、大分県中津市で毎年開催される「福澤諭吉記念全国高等学校弁論大会(中津市・慶應義塾大学 共催)」の第62回大会(12月8日)に、高1年7組の松田暁希さんが書類選考を経て出場、優秀賞を受賞しました。弁論の評価基準は、探究のプレゼンの評価とほとんど同じく、体験したことから何を学び取ったかを、データや文献などを根拠に述べられているかが重要です。中高一貫生の松田さんは昨年度に経験した



「アートマイルプロジェクト」での異文化理解の難しさを題材にし、ゼミ活動2年間の集大成ともいえる素晴らしい弁論をしてくださいました。

翌週行われた、総文祭県予選の弁論大会でも同原稿で参加し、グローバルな体験と自己省察の視点を評価され、最優秀賞を獲得。来年度の総文祭にも出場が決定しました。

### 高1-7 松田暁希さん

全国レベルの大会に参加するのは初めての経験で、弁論が始まる前は、未知の世界に飛び込むような不思議な感覚に襲われていた。心臓の音が鮮明に聞こえた気もする。あまりの緊張に弁論しているときの記憶がほとんどない。気づいた時には控室に戻っていた。

大会には全国から弁士が集まったが、ほかの弁士の弁論に圧倒される自分がいた。なにより、弁士の「自信」がすごい！「俺を見る。私を見る。」という強い思いが伝わるようなものだった。話すのではなく、伝える。相当な時間を費やして練習しているのが分かった。この人たちと並んでも、恥ずかしくない人間になりたいと思った。もっと自信を持ちたいと願うきっかけとなった大会だった。





## 長野市のイベントでボランティア

9月24日(日)リサイクルプラザ・サンマリンながのにて開催された「ながの環境フェア」に参加しました。今回は初めて、一般から募集したボランティアの生徒と生徒会執行部と一緒に活動を行いました。ボランティアに参加した生徒は「緊張や不安もありましたが、地域の方々と交流する機会もあり、紙芝居では小さい子たちが喜んで見てくれてとても嬉しかったです。普段経験できないことも多くいい経験になりました。とても楽しかったです。」と話してくれました。



11月3日には、セントラルスクウェアにて国際交流イベントの「ワールドフェスタ」が開催され、ボランティアとして参加させていただきました。沢山のブースが出店しており、外国の方の参加も多く見られました。外国の方は勿論、長野に住んでいる方も長野の魅力を再発見出来る素敵なイベントでした。日本だけでなく外国にも目を向け、様々な国の文化や生活について更に知りたいです。

(高1-4 竹村心葉さん)



## 【探究】地域創生フィールドワーク



Aコース:青年海外協力隊の体験を聞きインタビュー

<県全域にわたる6つのコース>

- A. JICA駒ヶ根/満蒙開拓平和祈念館
- B.妻籠宿/木曾馬の里
- C.セイコーエプソン/岡谷製糸博物館
- D.サントリー天然水北アルプスの森工場/大王わさび農場
- E.松代大本営/無言館
- F.ミネベアミツミ/白田ドーム



Bコース:木曾馬乗馬体験

「総合的な探究の時間」で調査し問いを立ててきた探究のフィールドワークとして、6つのコースに分かれ、11月16日に県内の様々な施設を訪問しました。各地で見学をしたり、インタビューをしたりしながら、データを収集しました。

ようやく学校を出て学ぶ機会を得、大変ながらも充実した機会となっています。今後、レポートを作成し、成果のプレゼンテーションを行います。

感想

どこを歩いても江戸時代・明治時代のような街並みだった。それを実現するために大きな通りの電柱を埋めたり、新築の建物には色や高さを制限しながら個人の財産や権利も守りつつ、法人として色々工夫されていた。あえてこの街並みの雰囲気を残して観光スポットとしていることが分かった。

伝統を変えることは良いことか悪いことか。妻籠宿では、何としても街並みを残そうとしていたが、木曾馬の里では、保存のために馬の変化をあえて惜しまないようだった。元の木曾馬よりやや小さくなっているようだ。変化することは良いことか悪いことか調べたい。

(高1-6 伊藤侑雅さん)



## 【インターアクト部】せりっこフェスタに参加

芹田小学校で創立150周年を記念した「せりっこフェスタ」が10月13日(金)に開催され、本校インターアクト部がボランティアとして参加しました。今年は、缶バッチ・魚釣り・射的を準備して昨年よりかなり大掛かりな活動ができました。私たち中学生は射的を担当させていただき、当日は景品を配りました。途中、校内の様子を見に行かせていただきましたが、芹田小学校の子どもたちや保護者の方々と触れあうことができ、関わり方を考える良い機会になりました。



普段関わることのない世代で、小さい子は7歳。どうしたら理解してもらえるか、楽しんでもらえるかを試行錯誤しました。目線を合わせて、ゆっくり優しい言葉で話す。

これが、小さい子たちを安心させる最適解だとわかりました。地域が抱える課題の一つ「世代を超えた地域活性のあり方」に目を向けた時、今回のような交流がその一助になるかもしれません。

来年もっと関係を深めるにはについて、部員の皆さんと世代を超えて、話し合いをしていきたいと思えます。(中3 伊藤 椿さん)



## 校則について考える座談会開催

9月、11月の中学集会を利用し、校則に関する中学校全校生徒による座談会を行いました。

9月のテーマは「スマホの利用」について。まず、「なぜスマホを持ってきてはいけないのと思うか」という、ルールの設定理由から考えました。「トラブルの原因になる」「勉強の妨げになる」というメディアリテラシーの問題が上がったとともに、「学校がダメだといったから」という率直な意見も出されました。「持ってきていいとすれば、どんなルールが必要か」という議論では、「プライバシーを守る」「使い方を決める」など、生徒の自律的な行動が大切である点が指摘されていました。このような議論が重ねられ、生徒の主体性が高まってくれば、そもそも校則など必要ないのかもしれない。

11月の「制服について」の議論では、制服が必要と考える人と、不要だという人が分かれました。制服の経済性や機能性に課題があることも分かりました。また、制服に留まらず、「生活の手引き」の中に疑問に思うルールがあることも上げられました。

出された意見は高校の「ルールメイキングプロジェクト」に報告しました。12月2日の全校集会「みんなのルールメイキング」の際、参考にしていただきました。



## 【国際交流】English Camp 2023

### 今年はネパールのYouMe Schoolと交流

今年で3回目になるイングリッシュキャンプのオンライン交流。今回は、ネパールの私立YouMe School(夢スクール)と交流をしました。

この学校は、日本に留学しているネパール人、シャラド・ライさんが設立した学校です。「ネパールの貧困の原因は教育格差だ。子どもたちの未来を創りたい」という信念のもと、たくさんの日本企業の協力を得て運営されています。



相手の名前をそれぞれの言語で書いて交流

感想

電波があまり良くなかったけれど、しっかり会話もでき、スムーズに進行しました。今回の交流で感じたことは、意外と英語が通じたということ。初めて自分たち2年生がリーダーとなりました。迷ったりこまったりしましたが、中1との班の人たちと協力したり、説明を聞いたりして、成功させることができました。スムーズに楽しくできよかったです。また、色々な国の人と仲良くなれたらと感じました。

(中2 津田柚希さん)

ネパールの遊びを体験



ネパールのフォトランゲージ



交流用の学校紹介ビデオを作成



## TOPICS

### 2月16~23日開催！カンボジアスタディツアー 参加者決定！ 事前学習 進行中！

9月に募集を行った、カンボジアへの希望者による海外研修。選考の上、高1年3名、高2年5名の合計8名が、参加者に決定しました。

11月の第1回事前学習では、チームビルディング、カンボジアの概要などを学習し、12月の第2回事前学習で、4つのグループに分かれて調査したカンボジアの歴史や現状などについて、発表しました。また、海外での安全管理についても学び、日本とは全く異なる環境でどのようにふるまうかを、ディスカッションしながら考えました。あと2回の事前学習で、現地の高校や村を訪れた際の交流内容を考えたり、クメール語(カンボジアの公用語)を学んだりします。何を見聞き、どんなことをするかを自己決定する場面が多く、臨機応変に対応する柔軟性が必要なプログラムです。

来年度の初めには、全校の皆さんへ向けて学習の成果をご報告することになります。実り多い研修となりますように！



BGNユネスコニュース あなたの隠れた活躍を 教えてください！

学校外で面白いことをしている人、他校や社会人団体の人たちとSDGsに関わる活動をしている人など、本校の隠れた逸材を探しています！取材の上、本誌に掲載させていただきます。自薦・他薦は問いません。年中募集中ですので、これからの活動も大歓迎です！

★中学職員室 BGN編集担当(長田・榎本)まで教えに来てください！